

日曜地質巡検会記事

第120回 (昭和58年11月27日)

北九州市立自然史博物館の見学

石川直衛 (長崎西高校)

11月27日(日)12時50分、肌寒い国鉄八幡駅で、長崎からの10名、佐世保からの2名と、九州大学地質教室の学生2名が落ち合った。北九州市立自然史博物館は、国鉄八幡駅ビルの2階と3階にあり、2Fが展示室、3Fが管理室になっている。この場所は暫定的なものであり、将来は独立した博物館の建物が設立される予定になっている。

太田正道副館長* (館長は秋吉台のフズリナ研究で有名な鳥山隆三博士) に普及室へ案内された。そこで学芸員の皆様の紹介があり、その後、小倉北区の山田弾薬庫跡地から白亜紀の淡水魚化石が発見されてから自然史博物館設立までの経過について、かなりの時間を当てて説明して頂いた。これは、長崎県でも自然史博物館設立の計画があることについての太田先生の御配慮によるものである。この博物館設立のため、研究者である立場を犠牲にして打ち込んでおられる姿には、頭の下る思いであった。

博物館は、この本館と、歩いて10分程の所にある分室の2つからなっている。展示は“北九州のルーツ・地球の歴史をさぐる”をメインテーマに5つのテーマから成り立っている。テーマ順に、

1. 北九州のおいたち
2. 北九州の動植物
3. 日本の自然

4. 無脊椎動物の系統と進化
 5. 脊椎動物の系統と進化
- の展示が行われていた。

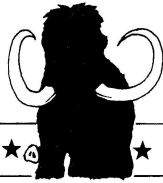
北九州市内で発見された魚類化石ディプロミスタス *Diplomystus primitinus* UYENO, 1979, *D. kokuraensis* UYENO, 1979 や、若松区に広く分布する芦屋層群産の数多くの貝化石と、その中に混って産出したペンギンに似たプロトプレルムの鳥化石とその美しい生活復元図、またニッポニーテスなどの数多くの立派なアンモナイトの標本、それから他を圧して堂々とした肉食恐竜のアロザウルスの骨格標本など、素晴らしいもの許りで、実に印象的であった。

その後、分室に案内して頂いた。ここは、陳列室と同時に、収蔵室・作業室などが置かれていた。ここでも、トラコドンなどの骨格標本や復元模型など、外国産の大型標本が数多く展示されていた。その他、魚類や世界各地の昆虫類の標本、学校の教材をすべて盛り込んだ植物標本を中心にした展示があった。

今回の見学旅行は、長崎県立自然史博物館設立に多くの示唆を与えてくれたものとして有意義であった。

(参加者14名)

*昭和59年9月1日付をもって自然史博物館長に就任されました。



★@ ★ 観 覧 案 内 ★★★★★

■開館時間

午前10時～午後6時(入場は5時30分まで)

■休館日

月曜日、祝日(祝日が月曜日のときは翌日)
年末年始(12月29日～1月3日)、館内整理日

■観覧料

個人 おとな 50円・こども 30円
団体(30名以上) おとな 40円・こども 20円
※おとなは高校生以上、こどもは小中学生

■交通機関

国鉄鹿児島本線 八幡駅下車
西日本鉄道(電車) 八幡駅前下車徒歩1分
西日本鉄道(バス) 系統番号43④7 八幡駅前下車

■お問い合わせ

北九州市立自然史博物館
北九州市八幡東区西本町三丁目6番1号(国鉄八幡駅ビル内)
☎093-661-7308

昭和58・59年度 日曜地質巡検会

(昭和58年4月～60年3月)

回	年月日	地 域 ・ テ ー マ	参加者
116	58. 4. 29	大村市鈴田地域の古第三紀層	10名
117	58. 5. 22	多良・経ヶ岳の地質	4
118	58. 9. 28	長崎半島野母崎の結晶片岩類の研究	25
119	58. 10. 23	虚空蔵山西麓の地質	25
120	58. 11. 27	北九州市立自然史博物館の見学	14
121	59. 3. 20	大村市南部祝崎付近の地質	14
122	59. 4. 29	西彼杵半島横断の地質巡検	30
123	59. 5. 20	式見ダムから矢筈岳間(第7回九州自然歩道の地学)	6
124	59. 10. 28	長与町付近の第三系と火山岩類	10
125	60. 3. 24	諫早少年自然の家付近の沢歩き	20

書 評

長浜春夫・松井和典：「早岐地域の地質」 地域地質研究報告 5万分の1図幅 福岡(14)第80号 地質調査所 B5版55ページ及び図幅 (昭和57年8月30日発行)

5万分の1地質図幅説明書「大村」が松井和典・水野篤行によって昭和41年9月14日に発行されてすでに16年が過ぎた。

多良岳火山に関心のある研究者から久しく待ちのぞまれていた「早岐地域の地質」がB5版の地域地質研究報告として、装いを新たに発行された。

本報告では、はじめに早岐図幅の西部から東北部にかけて広く分布する第三系にふれている。この地域の第三系は古第三紀の杵島層群(西彼杵層群)と、新第三紀の佐世保層群とに大別され、前者を漸新統、後者の地質時代については多くの意見があつて確定しないが、一応中新統としている。

その中で、東西両地域間では岩相を異にし、東部地域に同一の層序区分を適用することは相当困難で、地層対比についてはまだ疑問点が残されているとしている。

当地域の第三系は多くの盆状構造及びドーム構造からなる緩い波状褶曲と、これらの褶曲構造を切断する主として北西～南西方向の多くの断層とからなる、やゝ複雑な地質構造をなしており、主要断層は殆んど正断層であることが明かにされている。

とくに、図幅地域の西部の早岐付近と、東部の嬉野付近の第三系をつなぐはじめての研究としての意義が大きい。

つづいて、当該地域の火山岩類を下位から、神六山玄武岩類、多良岳火山基盤岩類、西海凝灰角礫岩、虚空蔵山火山岩類、有田流紋岩類、針尾島玄武岩類、多良岳火山岩類、大野原玄武岩類に分類し、多良岳火山及びその基盤岩類の火山層序を明かにしている。

その中でとくに、虚空蔵山火山岩類を多良岳火

山から独立させると同時に、虚空蔵山火山岩類の分布の特徴や一部に熱水変質作用が見られることなどから、嬉野町上不動付近を虚空蔵山の火口と考え、半径約10kmの広がりをもつ独立した火山であるとの新たな考え方を示している。

虚空蔵山火山岩類は新生代鮮新世以後に活動した火山の噴出物であるとし、下位から、不動山安山岩(Ka_1)、虚空蔵山凝灰角礫岩(Ktb)、輝石安山岩凝灰角礫岩及び輝石安山岩(Ka_2)、輝石安山岩(Ka_3)、口木田安山岩(Ka_4)、虚空蔵山安山岩(Ka_5)に分けている。

虚空蔵山凝灰角礫岩(Ktb)は、西彼杵半島北端部に分布する西海凝灰角礫岩(tb)に対比されるかもしれないが、川棚町石木に厚く分布する輝石安山岩(Ka_1)で上、下位に分けられる。また、その構成岩質にも相違があるので同層準と考えない方がよいとして西海凝灰角礫岩(tb)の延長であるとの阪口・迎(1973)の考えを否定している。そのためか、図幅において、川棚町猪乗川内付近における両者の関係や、彼杵町三根郷付近における虚空蔵山凝灰角礫岩(Ktb)と、かんらん石玄武岩凝灰角礫岩及び凝灰岩(Btb)との分布にやゝ不自然さが感じられる。また、指摘されている西海凝灰角礫岩(tb)と虚空蔵山凝灰角礫岩(Ktb)との岩質のちがいは必ずしも明瞭ではなく、むしろ基盤の岩石に由来する異質礫の種類と量比のちがいによるもので本質的には斑状の複輝石安山岩を主体とするものである。また、評者らは現在まで川棚町石木の輝石安山岩(Ka_1)によって、この角礫岩が上、下二つに分けられている事実を確認していない。

さらに、第1表地質総括表にも西海凝灰角礫岩(tb)の層準が示されていないところにやゝ不親切さを感じる。

写真図版には調査期間が長かったことを反映し、一部に貴重な古い写真も使用されている。古い写真については撮影年月を記入してもらおうと、さらにその価値が高まったのではないだろうか。 阪口和則(長崎南高校)